

外部専門員の活用事例をご紹介します！

外部専門員を実際に活用して学習環境や指導内容が改善したケースを紹介いたします。教員と外部専門員とのやり取りの様子をご覧ください。

事例 小学部教員の相談ケース

外部専門員 大澤 ちひろ 先生(心理)



○相談内容

「クラスのAさんは時々気持ちが不安定になって指示が通りにくくなったり、動き回ったりすることがある。どうやら初めての活動には見通しがもてないようだ。」「Aさんが落ち着いて学習活動に参加するにはどのような支援方法があるだろう。」と悩んでいました。そこで臨床心理士である外部専門員の大澤先生に学習の課題設定や教室の構造化について相談することにしました。

○行動観察

大澤先生に教室に来ていただき行動観察をお願いしました。

「動き回ったり、感覚入力遊びをしたりすることで、外界の情報が入りにくい状況になっているのではないか」との分析でした。指示の入りにくさは、動きが継続して興奮が高まっていることが原因であるため、指示を出す前の環境設定が大切であることが分かりました。

○大澤先生からの助言

- ① 次の行動を促す時は、静止している状況で行う。
- ② 指差しや具体物を近づけるなどの視覚的な提示の方が入力しやすい。
- ③ 近距離で短い言葉で伝える。
- ④ 壁に向かって着席する。学習に意識を向けやすくするため、視界を広げすぎないようにする。
- ⑤ 個別課題学習の中に、固有感覚・触覚にフィードバック（運動的な手ごたえ）の入る教材を提供する。

○取組み

大澤先生のアドバイスを受けて、次のことに取り組みました。

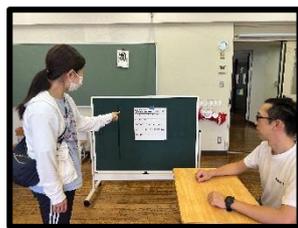
- ① 個別に指示をする際は、指差しや具体物を提示する。
- ② 慣れてきたら徐々に支援を減らしていく。
- ③ 課題に集中できるように壁を向いた座席配置とする。（パーティションも活用する。）
- ④ 個別学習の課題にプットインや物の移動など具体物の操作を取り入れる。

着座で注目を促してからの指差し（カレンダーの日付の確認）



先生

児童



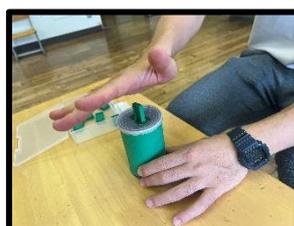
①注目を促して目を合わせる

②見てほしいカレンダーに視線を指差して誘導する

③日めくりカレンダーの日付を確認する

④カレンダー上を指さして同様に日付を確認する

プットイン課題



①受け皿の投入口を確認する

②投入口にブロックを入れる

③指の力では押し込むことが難しいため手のひらを合わせる

④ブロックに手のひらを当てて押し込む

壁を向いた座席配置



〇まとめ

アドバイスを活用して1か月程度取り組むと、ルーティンが確立するようになってきました。また、朝の会や個別課題学習の準備などの毎日行う一定の流れの活動においても、徐々にルーティンが確立し、一斉指示や周囲の状況を見て動くことが増えてきました。更に、壁を向いて学習に取り組むことで、集中して活動を続けられる時間が延びてきました。

一方で、周囲の状況を見る力がついてきましたが、自分に関係のない事象に対しても反応し、情緒が乱れる（イライラする様子）が見られるようになりました。これは、一つの通過点として捉えるように、大澤先生と情報共有をしています。

大澤先生に専門家の視点から助言をいただいたことで、教材の提示の仕方や環境設定の工夫をすることができました。今後も児童が理解しやすい提示方法や、集中しやすい環境を継続して学びを深められるようにしていきたいです。

【問い合わせ】

東京都立高島特別支援学校

Tel 03(3938)0415

副校長 渡部 早苗

研究研修部 鈴木 悠介